

総合科学技術・イノベーション会議有識者議員懇談会 [公開議題]

議事概要

- 日 時 令和6年1月18日(木) 10:29～10:48
- 場 所 中央合同庁舎第8号館6階623会議室
- 出席者 上山議員、梶原議員、佐藤議員、篠原議員、菅議員(W e b)、
波多野議員、光石議員
(事務局)
大塚内閣府審議官、渡邊統括官、坂本事務局長補、藤吉審議官、川上審議官、
徳増審議官、武田参事官、寺坂企画官
(文部科学省)
廣野科学技術・学術政策局産業連携・地域振興課拠点形成・地域振興室長
(オブザーバ) 橋本内閣官房科学技術顧問(外務省) 松本外務大臣科学技術顧
問、(文部科学省) 小安文部科学大臣科学技術顧問、
長野サイバーセキュリティ・政策立案総括審議官、
- 議題 ・地域中核・特色ある研究大学総合振興パッケージの改定について

○ 議事概要

午前10時29分 開会

○上山議員 皆様、おはようございます。定刻になりましたので、ただ今より総合科学技術・イノベーション会議有識者議員懇談会を始めます。

本日は、菅議員がオンラインで御参加、藤井議員は御欠席となります。また、文部科学省から科学技術・学術政策局産業連携・地域振興課拠点形成・地域振興室の廣野室長にお越しを頂いています。

本日の議題は、地域中核・特色ある研究大学総合振興パッケージの改定についてです。

まず、担当の寺坂企画官から資料の説明をお願いいたします。

○寺坂企画官 それでは、よろしくをお願いいたします。本件を担当しております企画官の寺坂です。

資料を3種類御用意してございます。1枚紙で「地域中核・特色ある研究大学総合振興パッケージの改定について」と表題を付けているもの、また、改定案とさせていただいているパッ

ケースのものとは現行のパッケージの資料を御用意させていただいてございますが、1枚紙の方を中心に御説明をさせていただきたいというふうに考えてございます。

この地域中核・特色ある研究大学総合振興パッケージについては、世界と伍する研究大学の在り方の具体化とともにC S T I 中心に検討を進め、令和4年度にパッケージとしてC S T I 本会議で決定したものです。その後、令和5年2月ですが、目指す大学像に向けて各大学が自らの立ち位置を振り返る羅針盤の考え方ですとか、また予算額の改定、そうした質・量両面の拡充を昨年度図ってございます。

今回の改定ですが、そうした内容面を改定するということではございませんで、上の四角の三つ目の所を書いてございますように、パッケージに掲載をされている事業について予算額を令和6年度の政府予算案に更新を行うということ、また、このパッケージに記載されております参考事例等について時点更新を行うということ、まず予定をしてございます。

その下に書かせていただいておりますが、あわせて、各大学が機能強化に向けて活用できる事業を一覧性を持って示していくという本パッケージの役割もございまして、その役割を機動的に果たしていく趣旨で、予算等、時点更新が発生する部分については別紙とさせていただきます。次年度以降時点更新をする際には、この木曜会合への報告で対応できるような形でパッケージの構成を変更するという形にさせていただきたいと思っております。このような形に変更することで、予算案がまとまった段階などの時点更新を行う際に、機動的に大学に情報提供を行っていくという形で対応をしてまいりたいというふうに考えているというものです。

1点目に申し上げました予算額の更新に関する部分ですが、この1枚紙の資料の左下の部分を御覧いただければと思っております。各大学の機能強化のために支援を行うコア予算の事業について、令和6年度の予算額を書かせていただいております。令和5年度比で4億円増の446億円という形で計上をしてございます。また、その下に関連予算という形で書かせていただいておりますが、自治体や民間事業者等、社会側の課題対応への支援事業で大学が参画することも可能な事業ということで、関連予算というものを併せてこのパッケージの中でお示しをしてございますが、こちらについては、令和5年度比231億円増の951億円ということで計上をしているということです。パッケージの中には、個別の事業名ですとか予算額を記載している部分もございまして、そちらについても更新をしているというところです。このほか、地域中核大学イノベーション創出環境強化事業の今年度採択校の取組紹介などの事例について、時点更新を行っています。

また、2点目の構成の変更についてですが、資料の右下の部分をご覧いただければと思います。赤字の点線で囲んでおります3-1、大学自身の取組の強化、3-2、つなぐ仕組みの強化、3-3、地域社会における大学の活躍の促進というところ、また、関連事業マップとされているところについては、事業ですとか、また事例といった時点更新が必要な部分を載せている箇所になります。この部分について、矢印の右側でございますように全て別紙という形にいたしまして、時点更新を行う場合には木曜会合への報告で対応するという構成に修正を行うということをさせていただいております。

以上、申し上げたところを簡単にですが、改定案の方の資料の方で御覧いただきますと、「改定案」と記載をしている資料の方を今共有させていただいておりますが、こちらの19ページ以降の所、別紙①となっている所以降のページが、時点更新をして改定をしていくという部分に落としたところの部分になってございまして、例えばその次のページを御覧いただきますと、このような形で地域中核のパッケージの全体像を示したものとして、例えばここに令和6年度の政府予算ですとか、それぞれ先ほど申し上げたコア事業の予算でありましたり、関連事業の予算でありましたり、そうした予算額を書いている部分がございますので、修正をしているというところですよ。

また、23ページの所を御覧いただきますと、こうした形で個別の事業名、また予算額等を列挙しているというところもございまして、こうしたところについても予算額の改定に合わせる形で修正をさせていただいているという形になってございまして、関連事業マップの部分については、46ページ、別紙②以降に書いてございます各事業を実際に羅列といいますか、列挙させていただいておりますので、そうしたところについても予算額等改定しているというのが、今回の改定になってございます。

以上が改定の内容についての御紹介でして、今後開催をされるCSTI本会議において決定して改定することを予定してございます。どうぞよろしくお願いいたします。

○上山議員 ありがとうございます。

それでは、ただ今の改定の御説明について御意見、御質問等ございましたら、どうぞよろしくお願いをいたします。どなたでも結構ですが、お手をお挙げください。いかがですか。

では、橋本先生。

○橋本顧問 個々のことではないのですが、これを作ったとき、現実はいろいろな予算を束ねたという経緯があるので、ある意味で仕方ないのですが、いろいろなものが合わさっています。これは応募する側からするととても手間がかかるように見えるのです。本来の趣旨からいうと

ブロックでお金を渡して、それで大きな目的は与えるが、具体的な試みは各大学が頑張ってもらってくださいとやるべき。本来はそうやるべきだが、予算の立てつけ上このようになっていると理解しています。

しかし、このように実際に分かれてしまうと、個々でしっかり行政当局は頑張りますので、現場ではとても厳しくなります。ある意味でばらばらになる。それは私が今いるJSTでも一部を受け持っていますから、そうすると当然JSTの事業として一生懸命やろうとするのです。私はそれに対して、それは重要だが、しかし、本来の目的はこうなのだから、それに合うように是非最大限に全体最適の範囲内でやるようにという指示を出しています。このことをしっかりと共有して、実際に予算を動かすところに、最大限本来あるべき姿に向くような運営をするように、文部科学省としてしっかりと指示をしていただく必要があるのではないかと思います。

○上山議員 ありがとうございます。いいですか、伝えることということ。

○橋本顧問 はい。

○寺坂企画官 文部科学省の方とも、こうした形でそれぞれの事業がある中で、例えば他の事業でどういった採択状況にあるのかですとか、そういったものも加味しながら実際個々の事業をどう運営していくかといったようなところ、そうした全体のパッケージがある中での個々の事業をどう考えていくかというところは、最終的には個別の事業で見なければいけないというところはあるかと思いますが、こうしたパッケージの中にあるというところも踏まえて御議論いただくというところは、文部科学省の方にも話はさせていただきたいと思います。

○橋本顧問 文部科学省からも、個別最適ではなく全体最適の方向で実施していくことの重要性を示していただきますようお願いします。

○上山議員 JSPSの方にもそうした形で行くのだと思います。

○橋本顧問 JSPSはいいですが、私ではない。

○上山議員 JSPSは大きいですから。

松本先生、どうぞ。

○松本顧問 橋本顧問のご意見に賛同します。私はJSTの橋本先生の下でCOI-NEXTというプロジェクトを動かしておりますが、それも本来、言ってみればここで述べられているような危機感から生まれたものだと理解しています。そういったものとJSTでやっているものここで言われている総合パッケージを、どううまく連結させて全体として最適化していくかという視点が極めて重要だと思いますので、それぞれのサイロでここが最適化という個別最

適ではなくて、全体感を持ってその中で動かしていくということが、今の日本の研究力向上のためには重要なのだらうと思っております。そうした観点も是非、文部科学省の方からも、それぞれのファンディングエージェンシーに対してそうした御指示をしていただければ、やりやすくなるのではないかと思いますし、各大学においても本来自律的に動いている組織ですから、そうしたところにもそういった指示が出て、彼らとの共感を持って動かしていただくということが重要なと思います。

○上山議員 ありがとうございます。文部科学省の方でそのことをこちらからの意見として多分伝えてくれると思いますので、よろしくをお願いします。

いかがでしょうか。総合振興パッケージの特に地域中核の審査は、ようやく終わって69校から12校が選ばれたということですので、ここにいる議員の方々の何人かがそこに非常に御苦勞をしていただいてようやく決まったという状況でして、全体像を見るということの重要性はかねがね文部科学省の方からも聞いてはおります。またここでの議論を踏まえてそうしたメッセージが伝わると思います。

他の委員の方々、いかがでしょうか。光石議員。

○光石議員 このパッケージの中で地方自治体というのはどういう役割を果たすことが求められているのか、また、どのようなメリットがあるのでしょうか。

○上山議員 これは寺坂企画官がいきますか。

○寺坂企画官 こちらについては、正に各地域にある大学若しくはその特色ある分野、強みを持っている大学を、どういった形で伸ばしていくかということを中心を主眼に置いてまとめたというところにありますので、実際の役割を明確にこの中でどこまで規定しているかということ、なかなかそういった部分については書けていないというところはあるかと思いますが、一方で、これをやっていくときのパートナーとして地方自治体とどういう関係にあるのかということ、大学側もしっかり見ていくということ、羅針盤でお示しをしている三つの主な機能の一つにも、そうした地域との関係がどうであるかというところは、しっかり見てくださいという形で位置付けておりますので、そうした形で大学側からもしっかり考えていただくというところは、自治体の位置付けとしてはこの中で位置付けさせていただいているところです。

○光石議員 大学については中央ばかりではなく地方を見ること、その活性化は重要だと思います。ありがとうございます。

○上山議員 JSPSの方々とも議論をして、結局カバレッジしているのは公立も私立もあってかなり多様な大学なので、例えば特に地方との関係ということについてもある種のアウトカ

ムの指標みたいなものを作って、それで自治体との関係でということの後々チェックできるようにしようというのをやってくださっているというふうに聞いております。

他の委員の方、波多野議員、どうぞ。

○波多野議員 御説明ありがとうございます。

資料の方の23ページに、先ほどから議論されております予算は俯瞰的に示され、アウトカムや機能別にグルーピングされていると思います。冒頭御説明がございました5年度から6年度にかけて予算の拡充により増額、どのような機能が強化・推進され、結果としてパッケージとして有効に促進されるのでしょうか？

○寺坂企画官 ありがとうございます。

446億という部分のところについて全体図をお示ししているのが、23ページの部分です。特にその中で増えているというところを中心に申し上げますと、新産業を創出するといったところに関する予算ですとか、あとマテリアルリサーチインフラの取組などはかなり増えてございますので、そうしたところを中心に増額の要因としては出ているというところですが、それに併せてこれまで取り組んでいるところについても、しっかり引き続き支援をしていく予算を確保してございますので、そうしたところと併せて取り組んでいただくという形になるかなというふうに思っております。

○波多野議員 いずれにしても、今御説明があった項目はこの中にグルーピングされて、全体をパッケージとして推進することができると期待しています。

○寺坂企画官 はい、その中で活用していただくという形になるかと思います。

○波多野議員 ありがとうございます。

○上山議員 他の委員の方々、議員の方々、いかがでいらっしゃいますか。もしなければ、公開でのパッケージの改定についての御説明と質疑応答を終えたいと思いますが、よろしいでしょうか。

それでは、ちょうど時間少し前ですが、ここで終わりたいと思います。更なるもし改定等、あるいはいろいろな話がありましたら、文部科学省の方でまた寺坂企画官の方でまとめて御議論いただきたいと思います。どうもありがとうございました。

午前10時48分 閉会